

日本 PF 学会 第 1 回課題研究委員会（広島地区）報告

日時：2009 年 12 月 26 日（土）13：00 ～ 15：30

場所：広島大学東千田キャンパス 206 号講義室

出席者（敬称略）：浜田栄夫・中尾香子・今井康晴・蘆田智絵・鈴木由美子・湯地宏樹・永瀬美帆

1. 課題研究委員会（広島地区）開催の挨拶

浜田先生から、課題研究委員会（広島地区）開催の挨拶があった。概要は以下の通りである。

3 年間くらいで子育て支援についてまとめることを目標に、ひとりひとりの問題意識の角度から研究を行う。ペスタロッチャーやフレーベルの実践は、ある意味での子育て支援であり、当時と時代は変わっても問題状況そのものは似ている（現代は高度情報化社会が進む上での混乱）と考えられる。歴史的積み重ねを踏まえた子育て支援を提示することは行政には難しいので、そのあり方を本学会から提言することを目的とする。

課題研究の目的：子育て文化の継承が行われやすい、次世代へのバトンタッチがしやすい社会を作っていくこと。日本でモデルが作れば、他のアジアの国々も参考にできる。

※高齢者も社会的弱者なので、子どもに起こっているような様々な問題は高齢者にも出てくる可能性がある。今までとは異なる、この学会だからできるという子育て支援の視点を出していくことはできないか。

2. 課題研究のテーマについて（敬称略）

各自が取り組みたいと考えているテーマについて簡単に述べた後、各自のテーマで各自に取り組みを始めることに決定した。

浜田：「子どもの生活体験の構造的変化」

生活体験の構造的変化に興味を持っている。子育て支援が必要となる背景に、生活体験の変化があることを浮き彫りにできたらと考えている。具体的には、〈綴り方教室〉を手掛かりに、なぜ子育て文化が伝わりにくくなっているのかについて明らかにすることを考えている。

鈴木：「子育て思想の歴史的変遷」

子育て指標の変化に関心を持っている。今我々が言っている子育てと同じか違うかについて明らかにする。ペスタローチャー・フレーベルの思想を現代に活かせるような研究を行いたいと考えている。

中尾：「子育て支援の理論的枠組みに関する考察—ペスタロッチャーを参考に—」

「親の子育て意識に関する調査」

今行われている思想や理念のない対処的子育て支援に疑問を持っている。また、今の子育て意識を捉え、どういった意識をもってもらえばよいかを明らかにする。

永瀬：「日常の保育の中での子育て支援」

幼稚園・保育所・認定子ども園などを子育て支援の拠点とする様々な試みがなされているが、特別な取り組みとしてではなく、日常の保育を通した子育て支援の在り方について明らかにして、保育現場の子育て支援力の底上げができればと考えている。

湯地：調査研究への参加（アンケート調査）を希望している。

これまでの子育て支援に関する研究に見られなかった、子どもからの視点への着目を考えている。これから先行研究を調査して問題点を洗い出したい。

今井：行政の行っている子育て支援に興味・関心を持っている。法律の面や、子育て支援の現状やこれまでの変遷などについて明らかにしたいと考えている。

蘆田：親になる以前の子育て支援に関心を持っており、オーストリアとの比較研究を行うことを予定している。

3. 今後の予定について

第2回は、3月27日（土）15：00～17：00に決定した。

次回より、1回につき2～3人程度発表を行う。

※スカイプを使って、他地域の先生方とも議論を行うことを検討中。

<今後の発表予定者（敬称略）>

3月：中尾・今井

8月：湯地・蘆田・永瀬